



# 天空の村 かかしの里

昔から祖谷の地には  
三十六の名(集落)があると  
言われてきました  
森の中の孤島のように  
山や谷に隔てられ  
それぞれに個性的な集落  
そこに続くひそやかな暮らし



## 名頃の住民

「祖谷川といへるは菅生のおく、なごろといへるかたより流れ出る」  
(祖谷山日記)

祖谷の最も奥地にある集落、それが「名頃」。「天空の里」とも呼ばれるこの地に人が住み始めたと言われるのは、江戸時代の文化年間(一八〇四年〜一八二八年)です。比較的新しいこの集落は、戦後に道路やダムが造られ急速に発展しましたが、山を下りる人が増え、だんだんとさみしくなってきました。ところが、最近の名頃はなんだかにぎやか。不思議な住人が村のあちこちに出没し、声なき声を発しています。その住人とは、どこかの誰かに似ている「案山子」たち。平成十五年から出現し始めたこの「案山子」の生みの親は、大阪から帰ってきた綾野月美さん。「案山子」たちにはちゃんと住民台帳があり、名頃を訪れた人は自由に閲覧することができます。

## 不思議な森の民

よく出会うおばあちゃん案山子は、まるで名頃の昔語りをしているよう。「ここはな昔、木地師という山の民が住んでおったんよ。木地師はろくろ師とも呼ぶんでよ。ろくろを回して木のお椀を作った。昔は、良い木を探して、山をあちこち訪ねてはそこに住むという暮らしをしておったんよ。そういう人々のことは、もう誰も忘れてしまうところけど、山にはそういう不思議な人の歴史も眠ってるんよ」



## 名頃小学校のかかし

平成24年春に廃校となった名頃小学校。子どもたちの姿が校舎や運動場から消えてしまいました。そこで、愛しいかかしたちが今も勉強を続けています。今では、「かかし祭り」の会場ともなる名頃小学校です。

